

五、野間園の終焉期

ンクリートが甚だしく剥落し、ひどい箇所は中の鉄筋が見えるほどの危険な状態にあることが判明したのである。本校では直ちにロッジの使用を禁止する措置をとった。そのため六一年度以降、野間園ロッジでのクラブ合宿は中止せざるを得なくなつた。その後同年八月二六日に開催された父母と教師の会（PTA）理事会において、野間園ロッジの解体が決議された。そしてロッジは管理室棟を残し、九月二〇日に解体を完了した。

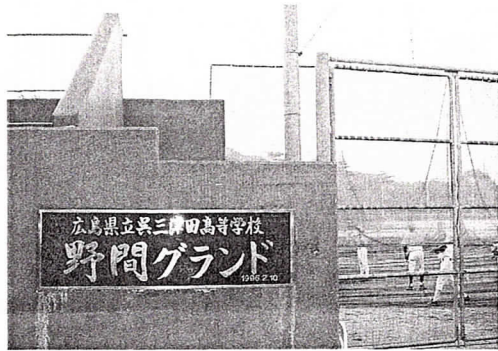
五、野間園の終焉期

昭和六二（一九八七）年

平成 八（一九九六）年

野間園ロッジの解体後、野間グラウンドは野球部とテニス部が引き続き利用し、一般市民にも開放されていた。

その後、平成三（一九九一）年、呉市から本校に、野間園の敷地を都市計画道路焼山押込線事業化に伴う計画道路用地として提供してほしいという要請があつた。この要請を受け、本校・県・市の三者で代替地施設等、移転の条件について折衝を重ねた。その結果、翌四年三月三〇日、焼山打田地区の呉市野外活動センター自由広場（九、〇〇〇平方メートル）を野間園の代替地とすることで三者が合意した。これにより、野間園の移転が正式



現在の野間グランド（本校第2グランド）



現在の野間八郎氏頌徳碑（左）とサニ夫人頌徳碑

に決定したのである。

その後、六年一〇月初めから呉市の設計のもと、新グラウンドの造成が始められ、翌七年二月、野球場と四面のテニスコート、管理棟付クラブハウスが完成した。八年二月一日、これらの施設は県有財産に移管され、野間園の移転はここに正式に完了した。野間八郎氏が野間園を本校に寄付した昭和一三年から五八年後のことであつた。

野間園の移転に伴い、「野間八郎翁之碑」と「野間サニ夫人碑」は移され、現在は県道三一号線（呉平谷線）に面した旧野間

園内の一角に造成された公園に移設されている。新グラウンドの正式名称は「呉三津田高等学校第2グラウンド」となったが、本校では野間八郎氏を偲ぶよすがとして、このグラウンドを「野間グラウンド」の愛称で呼んでいる。

いかに時代が移り変わろうとも、私たち三津田ヶ丘にゆかりのある者すべては、野間八郎翁の遺徳とこれまで野間園の経営に携わってきた数多くの先人の労苦を決して忘れてはならない。